



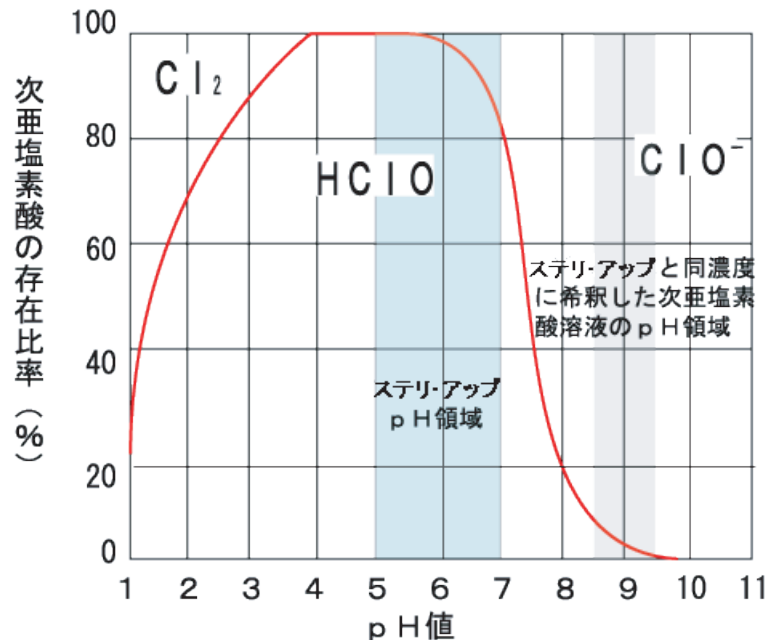
# ステリ・アップの環境に対する影響について

ステリ・アップの殺菌成分は次亜塩素酸です。この次亜塩素酸は菌を死滅させる作用がありますが、同時に有機物（アンモニア等）とも反応して分解する性質を持っています。



この様にステリ・アップは排水されても窒素と塩酸になるまで分解されます。

また、通常の次亜塩素酸溶液（200ppm）と比べてステリ・アップは低い塩素濃度（80ppm）で使用するので環境への影響はほとんどありません。



塩素系殺菌剤で問題にされるトリハロメタンの問題ですが、トリハロメタンは水に含まれるフミン質・pH・残留塩素濃度・温度が共に高いほど生成されやすくなります。

上の図はpHによる塩素の存在形態の違いを示したものです。

ステリ・アップの水溶液はpH調整剤によって、pH5～7に安定的に保たれています。

これに比べ通常の次亜塩素酸溶液はpH8～10となっています。

この様に通常の次亜塩素酸溶液より低いpH・塩素濃度で使用するステリ・アップはトリハロメタンの生成もし難く、環境に負荷をかけない製品と言えるでしょう。